

1 畑迫地区の概要

畑迫公民館は、津和野町の中心からおよそ7km離れた山間に位置し、6月には「ほたるまつり」が行われるなど、自然に囲まれた地域である。

人口は578人で、高齢化率は58.2%。平成24年に小学校が閉校してからは子どもや若者と地域の関わりが急激に減少している。

2 事業の趣旨

小学校閉校以降、学校を核とした多世代のつながりが希薄になり、今後、地域の行事の運営や継承がさらに困難になるのではないかと危機感を抱く声も多い。

そこで、本事業を通して、地域の若者や大人それぞれの想いがつながり共有できる場を増やすことで、世代を超えて共に動き出す地域住民を増やすと共に、地域課題に向かい、地域を元気にする次世代リーダーの育成を目指したい。

3 具体的な取組内容

(1) スタートアップ（雰囲気・関係作り）

ア 若者との交流会 [5月～7月]

畑っ子ランド（親子会）と意見交換を定期的に行い、地域の子どもたちや親世代が、地域のことをどのように考えているのか、想いや課題を把握することにした。畑っ子ランドの活動や親世代の想いが広がっていくよう、楽しみながら自分たちのやりたいことが伝え合える雰囲気づくりと一緒にやろうという関係づくりを行った。親世代からも「定期的な“ご飯会”をやりたいね。」「交流ができる場があるといいね。」とい

った声も聞かれた。

イ 青少年育成協議会の活性化

[8月～9月]

交流会などを通して生まれた関係性を活かし、世代交代の必要性を感じていながらもなかなか実現できなかった青少協の会長・副会長の若返りが実現した。若者の想いが地域に反映されたり、それぞれの想いがマッチングしたりできるチャンスとなった。

(ア) 津和野高校校長の講演

世代交代に際して、何かを注入したいと考えた。

そこで、総会にて津和野高校の校長先生を講師に、高校で行っている取組や子ども達の今や今後に対しての大人の向き合い方についての講演をしていただき、気運を高めた。

(イ) 幹事会にて

津和野高校の活動を紹介したテレビ番組を視聴し、高校の取組内容についてさらに触れることでイメージを深めた。

(2) やる気アップ（視察～振り返り）

プロジェクトの参考となりそうな取組を行っている邑南町への視察研修を提案し行ってみることとなった。

ア 参加者募集 [10月]

責任感や特別感を感じてもらうために、地域公募ではなくキーパーソンになり得る人（若者とその家族や地域活動の中心の大人）にダイレクトメールを出した。

イ 邑南町視察研修 [1 1月]

活動リーダーである邑南町役場の寺本氏に取り組んだ経緯や内容などについて講演していただいた。

さらに、実際にどのように活動をしているのかを知るために、

- ・レストランで食事
- ・若者の店、道の駅の見学

などを行い、活動の様子を肌で感じた。

また、アンケートも行い、各々の感じたことを調査した。



(大人も子どもも講演を聞いて想いを深めた)

ウ 振り返り [1 2月]

地域おこしレストラン「糧」を会場に、持ち寄りスタイルのランチ振り返りを行った。

まず、アンケート結果を参加者で共有した後、地域でやりたいことやできることなどについて子どもと大人が一緒にテーブルで語り合った。

「まちの課題も見方を変えると資源になる」と多世代間で活発な意見交流が行われた。



(3) ステップアップ (想いを形に)

地域住民一人ひとりの中にやってみたいことや想いはあり、振り返りでの意見を参考に楽しめることとして2つの活動を企画した。

ア ピザ作り [1月～2月]

今後、食べることを軸に活動を行っていくために、畑っ子ランドのメンバーに声をかけた。地域住民から手作りオーブンを借用し、試運転を行い、「自分たちにもできる!」と自信を持ったことで来春、ピザ交流会を行う。



(試運転を自分たちの手で行う)

イ 語り場作り [2月～]

旧畑迫小学校の教室を活用し、若者で考えて壁紙やタイル、ペンキを使ってリフォームし活動拠点とする。

4 評価と成果

この活動を受け入れ、積極的に行動しようとする若者が出てきていることで、ピザ交流と語り場作りは進む手応えを感じている。

5 今後の課題と見通し

(1) 課題

今年度、この活動を公民館主体でやってきたが、今後どのように地域に展開していくかが課題である。

そこで今後、若者主体で動いていき、尚且つ地域がサポートするための仕掛け作りが重要となる。

(2) 見通し

若者主体でピザ交流会や語り場作りを進めていく。その中で、地域団体の人や活動を若者の活動にくっつけることで、プロジェクトの促進を図る。

(文責：主事 笹木康平)